

**千年の刻(とき)を
駆けぬけた
オリジナルミュージカル**

わが街、市川市を舞台に、現代に生きる普通の人たちが巻き込まれた不思議な不思議な一夜の出来事です。
現実の社会をリアルに表現しながら一人一人の人物がユーモラスに描き出され、生霊の宿る巨樹スタジオの伐採をめぐるドラマが、千年の刻(とき)を駆けぬけ、素晴らしいミュージカルとなって歌い上げられていきます。

子どもたちが踊る
エネルギーが溢れるダンス。一人一人が生き生きと輝き、舞台いっぱいを使って飛びはねます。重要な役割となった生霊の世界と人間の世界を結びつける「みざる」「いわざる」



「さかざる」の3匹のサル役のひょうきんな歌や振り付けが、そして、モノケダンサーズのおどろおどろしく激しい踊りが、すべて一体となって観客をぐいぐい舞台に引き込んでいきます。ひょっこり現れた、園児たちの可愛い子タヌキのダンスと歌には、思わず笑みがこぼれます。

**何もかもが手づくり
出演者は全員が素人！**

市民ミュージカル制作の発端となったのは、2001年2月にさかのぼり

市民ミュージカル

「いちかわ

延べ人数800名で創りあげた
市民ミュージカル
「いちかわ真夏の夜の夢」
踊った、歌った、ステージが熱く燃えた！

特集 2
Let's Dance! in Ichikawa
いちかわで踊ろ

真夏の夜の夢



2002年8月31日の市川市文化会館大ホールで行われた本番は、2公演とも満員御礼。



♪ポンポコポン
子タヌキは、
三愛幼稚園の園児たち。



みんなの熱気で体育館も揺れる。



公演を終えて

作・作詞・演出 吉原 廣さん

この感動を成功と言わずしてなんと云えばいいのでしょうか。地域・街のつながりを意識していくことは、命のつながりだと思っています。命の大切さと役割は、地域が守っていくものだと思います。いま、ここに市川の新しいものが生まれたいと信じています。そしてこれからも、いろいろなどころでの出会いがあって欲しいと思います。

**歌った！ 踊った！
そして弾けた！**

演じるほどに、歌うほどに輝き、躍動感にあふれる素晴らしい舞台は、終盤まで観客を一気に引きつけていきます。

市民ミュージカルに携わった延べ人数は800人超。正確な人数が把握できないほどの人たちがつくり上げてきました。可能性にチャレンジした一人一人の熱い思いを込めた、エキサイティングな舞台こそ、「真夏の夜の夢」そのもの。一夜が明けても歓喜の余韻は続きます。

2回の公演を終えました。3200人の観客を魅了し、興奮の渦に巻き込み、成し遂げた充実感とともに舞台は幕を下ろしました。

ます。「子どもと大人が一緒になって一つのものをつくり上げていこう」と、演劇鑑賞活動を行っているNPO法人「市川おやこ劇場」(宇野京子理事長)が発案。小さな気持ちは大きな夢となつて、実現へ向けてはばたき始めました。「いちかわ真夏の夜の夢」は、市民の声から立ちあがり、市内のさまざまな団体や個人が参加・構成する実行委員会「市川で市民ミュージカルを創ろう！」が発足し、構想が練り上げられていったのです。

タートしました。

**気持ちはひとつ。
一人二人が
可能性へ挑戦！**

2002年夏。陽炎が揺らぐ記録的な猛暑が続くさなか、小学校の体育館